

1. 本授業科目の基本情報

講義名（コード）	TDB208	ITビジネス演習Ⅳ	
科目名（コード）	TDB208	ITビジネス演習Ⅳ	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	6単位90
授業担当者	伊藤 玲/島田 昭仁	時間数	
成績評価教員	伊藤 玲/島田 昭仁	講義期間	秋期
実務者教員	いいえ	履修区分	実習
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	業界知識を理解し、課題について、解決案・提案を作成し、発表できるようにする。 本講義は、演習形式として、企業経営者や業界関係者を招いて、業界知識や事例について勉強する。 各授業の後半では、前期の継続として、VP用のプレゼン準備をグループで行っていく。これを最終的に卒業制作として作品にする。VPは12月を予定している。
全体的内容と概要	授業は演習形式である。授業によって、企業関係者を招いて、講義を行う。 ・例）新井美佐雄 税理士 上記以外に、業界関係者を招いて、業界や企業運営についての授業を実施予定である。 授業の後半部分は、VP用のグループ制作になる。
授業時間外の学修	パソコンの使い方や、問題解決の流れについて、他の授業で行う。 履修上の注意事項 グループにて、演習・課題取り組みをするので、できるだけ休まずに参加すること。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席率） 30%以上	協同授業態度（授業中の活動評価点） 10%
評価方法	期末試験の点数	（小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期開始のオリエンテーションを実施し、全体像を理解する。	後期授業の全体像をつかみ、目標設定とすべきこと等を理解する。
2	演習1：起業準備知識を理解する（接客）。	自身が起業すると想定して、そのための知識と準備について理解する。ここで、人間関係、接客力を考えてみる。
3	演習2：起業準備知識を理解する（売り上げの計算式）	自身が起業すると想定して、そのための知識と準備について理解する。ここで金銭面で売り上げについての計算を考えてみる。
4	演習3：起業準備知識を理解する（計数管理）	自身が起業すると想定して、そのための知識と準備について理解する。ここで金銭面で計数管理についての計算を考えてみる。
5	演習4：起業準備知識を理解する（その他）	自身が起業すると想定して、そのための知識と準備について理解する。人間関係、売上関係以外のところを考えてみる。
6	税理士（新井美佐雄）授業1	「日本における起業・会社設立について」総論を行い、6回から13回について流れを理解する。
7	税理士（新井美佐雄）授業2	「日本における起業・会社設立について」会社設立の要件(Requirements of establishing a company)
8	税理士（新井美佐雄）授業3	「日本における起業・会社設立について」会計（Accounting）
9	税理士（新井美佐雄）授業4	「日本における起業・会社設立について」税務（Tax）
10	税理士（新井美佐雄）授業5	「日本における起業・会社設立について」まとめ
11	課題に取り組む1	起業に関する課題に取り組む
12	課題に取り組む2	起業に関する課題に取り組む
13	発表資料作成	課題についての発表資料作成を行う。
14	期末試験	クラス内にて、プレゼンテーションにて発表する。
15	プレゼン資料最終作成	プレゼンテーションで使用了資料の最終版作成にて提出物に仕上げる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	オリジナルプリント教材を配布する。
参考文献・資料等	授業内容により、その都度紹介する。
備考	授業等で参考になる本やHPを参考して、資料作成に取り込んでいく。 授業の進捗により、講義の順番を入れ替えることがある。